事例No.	174
公表年度	H28
団体の属性	町村
団体名	沖縄県伊江村

事例区分	第三セクター

タグ	・会社法法人 ・観光

事例種類	公共性、公益性が高い事業の効率的な実施

事例内容・タイトル

特産品を活用した商品開発と販路拡大による村の認知度向上

出典

第三セクター改革等先進事例集

事例名	特産品を活用した商品開発と販路拡大による村の認知度向上
団体名	沖縄県伊江村
法人名	(株)伊江島物産センター

＜地方公共団体のデータ＞※

人口(人)	4,730
標準財政規模(百万円)	2,409
財政力指数	0.17

※ 人口は、住民基本台帳に基づく人口(平成 28 年 1 月 1 日時点)
標準財政規模及び財政力指数は、平成 27 年度決算の数値

＜法人データ＞

[出資等の状況](平成 28 年 3 月 31 日時点)

伊江村	10(47.6%)
その他	11(52.4%)
役職員数(人)	6

[経営状況](平成 27 年度決算)

経常収益	112
経常損益	6
当期純損益	4

(単位:百万円)

資産	48
負債	0
純資産	37

[法人概要](設立目的、業務概要等)

(株)伊江島物産センターは、観光土産品、農林水産物、および加工品の企画、開発、販売に加え、各種祭事の企画、運営を中心とした事業を実施し、地元資源の有効活用、伊江村の認知度向上に寄与すべく平成 15 年 11 月に設立された。





1. 本事例の概要(取組の内容、ポイント)

観光の振興、農産物、水産物、特産加工品販売など村全体の産業振興を目指すには組織的な運営と販売チャネルの集約が課題であった。村全体の特産品を取り扱うことから第三セクターとして(株)伊江島物産センターを立ち上げた。

(株)伊江島物産センターは地域資源活用プログラムを利用し、様々な地元資源を生かした農林水産物、加工品の開発、販売新商品の開発を行うとともに、県内外の物産展や展示会などへ積極的に参加し、販路拡大や特産品の PR 活動を行っている。特に県内イベントの「離島フェア」や「沖縄県産業祭り」などで出品商品が高い評価を受け、伊江村認知度の向上、産業振興に貢献するなど、法人の設立目的に合致した経営ができている。

２．取組みの背景、理由、着手のきっかけ

伊江村の特産品や農産物は無人販売や個人商店により販売されており、観光客は複数の商品を手に入れるには複数の店に行く必要があり、利便性に欠けていた。また、港ターミナルでは特産品は個人への賃貸ブースで販売されるなど組織化されていなかった。

村の産業振興を図るためには、伊江村の認知度向上や、特産品の開発、商品の PR を全国的に展開することが必須である。そのため、地域各団体の意見を集約し基幹となる組織を設立することとなった。

３．取組の具体的内容

⑴取組方針とその決定過程

①主要な課題・論点について

観光の振興、農産物、水産物、特産加工品販売など村全体の産業振興を目指すには組織的な運営と販売チャネルの集約が課題であった。

②課題・論点解決に向けての検討内容

施設利用料を含め適切な維持管理のため、株式会社、第三セクター、管理組合、企業組合による管理運営が必要であると検討された。特産品による村産業の振興を図るため、各団体、外部委員にて構成される管理運営検討委員会にて①施設の有効活用、②運営の収支試算を踏まえ、管理運営主体の在り方について検討が行われた。

③決定された取組方針とその決定理由

（株）伊江島物産センターを管理運営主体とし、村全体の特産品を取り扱うことから第三セクターとする。村で生産される農林水産物や、加工品、特産品の販売や開発を促進し、地元資源の有効活用により、各産業への波及効果をもたらすこと、観光事業のみならず全ての産業に相乗効果を与え、村民の雇用の機会を拡大するなど、村経済の発展に貢献するように努める。また、採算性を重視し、村当局に財政的な負担を掛けないよう取り組む。具体的には、伊江村の特産品を集約し、販売できる核となる施設とするために既存の施設を利用して行えるよう整備する。農家が生産した農産物、伊江漁協の加工品を委託販売する。自社加工所からの加工品販売を中心に展開する。

⑵取組の具体的な進め方

沖縄総合事務局の地域資源活用プログラムを利用し、新商品の開発を行うとともに、県内外の物産展や展示会などへ積極的に参加し、販路拡大、特産品PR活動を行った。

農林水産業が盛んな本村には、様々な特産品があり、それらを活用して、伊江島産べにいも、落花生、さとうきび、ハイビスカスローゼル、ラム酒のイエラム　サンタマリアを使用したアイスクリーム、伊江島産の島らっきょうを使用したらっきょうドレッシング、伊江島の黒毛和牛を使用した伊江牛ビーフジャーキー、伊江島産サトウキビを使ったシロップ「イエラムサンタマリア　ケインシロップ」、など素材を重視した商品開発を行ってきた。また、本村ではサトウキビの生産も盛んであり、「バイオエタノール実証実験プラント」の事業終了に伴い、事業者より譲渡されたプラントの指定管理を受け、村内で生産されたサトウキビを使用した地酒（ラム酒）製造所として整備し、平成 21 年度より「イエラム　サンタマリア」の製造を開始した。

3．取組の具体的内容（つづき）

「伊江島」「イエ」という文字を商品名に取り入れ、購買者には「まずは伊江島という島を知っていただく」ことを重要とし、認知度向上へ取り組んでいる（例：イエソーダ（伊江ソーダ）、イエラム（伊江ラム）等）また、原産地、原料産地を明確に表記し、地元資源を生かした商品であることをアピールしている。

「イエラム サンタマリア」の製造には、酒類製造免許の取得が大きな課題であったが、その中でも大きな課題であった①製造技術者の在籍、②製造施設の確保、（施設整備等の資金等）、③原料確保、④販売先・取引先の確定は他特産品にも応用できるプロセスであり、今後は取扱品目における技術者の育成、長期的な技術指導を行うとともに、広報、営業活動ができる人材の育成などに注力し、健全な経営を継続する。

（単位：千円）

	H23	H24	H25	H26	H27
経常利益	7,125	11,044	4,615	6,263	4,804

4．取組の効果

設立当初より農林水産物、加工品の開発、販売を行ってきたが、平成 20 年度に開かれた離島フェア 2010 において「伊江島らっきょうドレッシング」が優秀賞を受賞した。平成 21 年度より生産、発売を開始した「イエラム サンタマリア」は、沖縄県産業祭り（商工会祭り）では最優秀賞を、離島フェア 2011 では優秀賞を受賞した。

また、「イエラム サンタマリア」を利用したカクテル「オキナワン ソトラム」は離島フェア 2012 に特別賞、観光資源でもあるハイビスカスローゼルを活用したリキュール「アイランドハイビスカス」は沖縄県産業祭りおよび離島フェア 2013 それぞれで優秀賞を受賞し、同時に、石けん 2 種（ハイビスカスの花と葉を手摘みで収穫し練り込んだ「Ie HIBISCUS」と、北海岸の景勝地である湧出（ワジー）の塩とにがりを配合した石けん「Ie OCEAN」）が特別賞を受賞した。2014 年には特産品である島らっきょう（沖縄県農林水産戦略品目拠点産地認定）を使用した「いえぎょうざ」が離島フェア 2015 にて特別賞を受賞した。

平成 25 年には伊江島産サトウキビを使ったシロップ「イエラムサンタマリア ケインシロップ」が離島フェア 2014 では特別賞、平成 26 年にはイエラム 3 年熟成プレミアムラムを発売し、平成 27 年には海外へ輸出をはじめるなど、様々な特産品の開発、販路の拡大、認知度の向上に貢献している。



商品名	H23	H24	H25	H26	H27
イエラムサンタマリア	6,251 本	3,874 本	4,093 本	4,700 本	4,818 本
	15,628,270 円	9,685,829 円	10,231,409 円	11,748,925 円	13,009,502 円
イエラム プレミアム T1（限定販売）				160 本	81 本
				1,818,978 円	924,749 円
イエラム プレミアム T9（限定販売）				155 本	66 本
				1,918,509 円	814,680 円

※数量は 720ml瓶換算

5. 今後の課題（今後の方針、残された課題等）

ラム酒は、国内でも徐々に認知されつつあるが、その中において本村の新たな特産品である「イエラム　サンタマリア」をアピールし販路拡大への取り組みを継続していく。同時に、インターネット販売やSNS、県内外のイベント等での PR に取り組む。購買者の意見を取り入れるために随時マーケット調査を行い、購買につながる魅力ある商品開発を進めていく。開発と並行し、工場経費を節約するために加工製造に掛かる原料の見直しや、量産体制を整えるよう製造ライン、手順などの見直しを行い、生産性を高めるよう改善をしていく。また、長期的な観点から今後の安定生産、開発にむけ、工場作業者（技術者）、営業スタッフの育成が必要不可欠と考えている。

6. 他団体の参考となり得る点（苦労した点、工夫した点、上手く進んだ理由、反省すべき点等）

商品名に地域名を取り入れるなど、購買者への認知度向上を重点的に取り組んでいる。また、原産地、原料産地を明確に表記し、地元資源を生かした商品であることをアピールしている。

季節に応じて生産される農作物が違うため、原料の安定供給が課題である。当年の実績を基に、次年度の作付面積を農家と調整し、原料供給に努めている。また、村内での既存製品との競合を避ける為、新たな加工品（特産品）を試験製造、製品化する事を心がけている。

健全な経営を目指し、各品目につき、原料、製造技術者、製造施設の確保、施設整備等の資金等、販売先・取引先の確定から、技術者の育成、長期的な技術指導を行う取り組みを行い、同時に広報、営業活動ができる人材の育成などに注力している。

＜参考＞地方公共団体の問合わせ先

担当課	伊江村総務課	連絡先	0980-49-2001